

地域産業クラスター特論 (2単位)

担当者氏名 黒瀧 秀久

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

産業クラスター論はマイケル・ポーター氏が国の比較競争優位をつくり出し新たな産業集積を進める理論としてクラスター理論を展開し、現在ではその一定の実践的有効性が認知されている。本講義では、いかなる客体的・主体的条件が備わることによって、地域産業クラスターが形成・発展を遂げ、地域に定着するかを理解させることを学習・教育目標とし、理論・歴史・政策の各側面において考究する。最終的には北海道やオホーツク地域の産業クラスターの新展開への示唆を得ることを重視する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載) ご自身のキーワードを記入してください

産業クラスター	国の比較優位	川上産業	川下産業
サプライ・チェーン(供給連鎖)	シリコン・バレー	オウル・モデル	地域イノベーション

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	クラスター理論の意義と課題 (第1～4週)	マイケル・ポーター氏によるクラスター理論をはじめとして、産業振興において産業集積がもたらす積極的意義と課題を理解する。	◎準備学習としてレジュメを作成して報告し、講師に質問をするなどして授業内容を理解するように努めること。
2	地域産業クラスターの形成過程 (第5～8週)	海外における産業クラスター政策の動向として、アメリカのシリコン・バレーやフィンランドのオウルのハイテク型クラスターの形成過程を理解する。	◎また、講義で配付された資料等については、講義後、復習をすること。
3	日本における地域産業クラスター政策の展開 (第9～12週)	東大阪の中小企業群による産業集積、筑波研究学園都市による知的集積をはじめとして、日本各地の地域産業クラスター政策の展開を理解する。	
4	北海道における地域産業クラスターの課題 (第13～15週)	北海道における競争優位産業として、バイオ産業やIT産業による地域産業クラスター計画を検証し、オホーツク・モデル形成の課題を明らかにする。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

『国の競争優位』(上・下) /マイケル・E. ポーター、土岐坤訳/ダイヤモンド社 (1992年)

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

『地域産業・クラスターと革新的中小企業群』/伊藤正昭・土屋勉男/学文社 (2009年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

毎回のレポートにて評価する

◆オフィスアワー

毎週金曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなく、自ら理論を創造するという態度で授業に参加してほしい。